

海外派遣留学プログラム 留学中報告書

所属：融合理工学府創成工学専攻 学年：修士 1 年

留学先大学：アアルト大学 現在の学期：第 1 学期

時間割：

曜日	履修科目名・時間等
月	
火	Survival Finnish 10:15-11:45 Designing for Service 13:00-16:00
水	Designing for Service 13:00-16:00
木	Designing for Service (外部パートナーとの MTG) 9:00-10:00
金	Designing for Service 9:15-12:00
土・日	

履修科目や近況について

【履修科目について】

Designing for Service と Survival Finnish の 2 つを履修している。

Designing for Service はアアルト大学があるエスボー市と共にリアルな課題解決を行う実践的な授業。授業は週に 3 回で、さらに週 1 回外部パートナーとの定例 MTG がある。時間割はイレギュラーで、週によって時間が異なる。グループワークで行われ、私たちの班は留学生のフィンランドでの就職をテーマに取り組んでいる。実践的なアウトプットだけでなくインプットも多く、毎週デザインメソッドやビジネス領域の論文を読む課題がある。成績は、授業への積極性、3 回のレポート、中間発表、最終発表でつけられる。授業は英語で行われる。ほとんどの学生が英語ネイティブではないのでスピードや語彙は比較的理解しやすいが、慣れない英語でディスカッションについていくのはハードである。自分の理解が間違っていないか時折確認しながらグループワークに参加している。分からなかったらきちんと聞いて、参加する意志を示すことがとにかく大事だと感じる。

Survival Finnish は初学者向けのフィンランド語の授業。デザイン以外の学生との交流を期待し履修した。内容はフィンランド語の簡単なフレーズや入門的な文法。成績は毎回の宿題でつけられるが、かなり軽い。欠席できる回数の上限は 1 回までで、私は前述の不規則な時間割の授業を取っていた関係で日程を調節するのが難しかった。

【生活面について】

授業開始前にオリエンテーションウィークがあり、1週間かけて事務的な内容だけで無くフィンランドでの生活や留学を最大限活用するための秘訣など手厚い説明があった。

個室付きのシェアハウスに住んでおり、ルームメイトが2人いる。全員専攻が同じで、一緒に教室にいたりヘルシンキに出かけたりしている。授業外でも一緒に遊びにいけないような友人を作ることができた。グループワークが多いので、友達を作りやすい環境だと感じる。

学内のコミュニケーションツールとしてTelegramが使われている。アアルトに留学中の日本人グループチャットがあり、困ったことがあればそこで相談できる。定期的にお出かけを開催している。母国語で羽を伸ばせるコミュニティがあるのは安心要素だと感じる。

共用キッチン



鍵付きの個室（家具付き）



学内の様子



所属：融合理工学府創成工学専攻 学年：修士 1 年

留学先大学：アアルト大学

現在の学期：第 2 学期

時間割：

曜日	履修科目名・時間等
月	Designing for social change-strategy 9:15-15:00
火	
水	Designing for social change-participant 9:15-16:00
木	Designing for social change-strategy 9:15-15:00
金	Designing for social change-participant 9:15-16:00
土・日	

履修科目や近況について

【履修科目について】

Designing for social change-strategy と Designing for social change-participant の 2 つを履修している。各 6 単位で、どちらもより良い社会をつくるための社会活動（まちづくりや市民参加、啓蒙活動など）とデザインの関わりをテーマにしている。

Designing for social change-participant は関わる当事者を巻き込んでデザインを行う Participatory Design を中心に扱っており、特に様々なステークホルダーを巻き込んだワークショップを設計する方法を扱う。Designing for social change-strategy はより広汎な内容を扱っており、Design Activism の定義や、活動の価値やインパクトを評価する方法、公共領域でのデザインの動向を扱っている。前半の 3 週間は論文のリーディング課題を含んだ座学で構成され、後半はプロジェクトやワークショップを企画する実践課題を中心に行われる。

哲学や政治の分野を含んだ抽象的な内容を扱っているため、自分の実体験やこれまでのデザイン経験と結びつけて理解することが難しい。逆に言えば、これまでデザインのフィールドと認識していなかったものに触れる場になっていると感じる。

【生活面について】

交友関係について

グループワークやチームディスカッションが多いため、友人を作りやすい環境だと感じる。学食でご飯を食べるくらいの広くゆるいつながりと、休日にでかけるような狭くて深いつながり、どちらもバランス良く得ることができた。留学する上で、人とのつながりが持てるかどうかを一番心配していたが、日本人のコミュニティもあり、多くの人と交流で

できる環境を確保できている。

休日の活動について

多くの美術館が月に1回フリーアドミッションデーを設けており、その日を狙って各美術館を巡っている。またフィンランドの建築家アルヴァ・アアルトの建築巡りやおいしいシナモンロール探しを実施している。またターム休みにはエストニアを訪れた。船で片道2時間で行くことができる。今後はサンタクロース村のあるロバニエミや古い町並みの残るポルボーへ行く予定である。

自然環境について

サマータイムが終わり急激に日が短くなっている。日本から持参したビタミンDを毎日30 μ グラム摂取している。薬局でも買うことができる。11月上旬時点で最低気温がすでに0度を下回っており、真冬の寒さになっている。冬への準備として、ヘルシンキアウトレットでフィンランド製のコート（半額で100€）を購入した。また、セカンドハンドショップでフィンランド製のブーツ（20€）を購入した。

就職活動について

修士1年での留学であったため就職活動と時期が重なっていた。留学直前に3社のインターンに参加した。そこからいくつかの面接をオンラインで受け、その中の一社から内定を頂いた。他企業の情報収集は続ける予定であるが、留学に専念できる状況になった。